

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで 中山道（東下り）を歩くー12



平野 武宏

バーチャルウォーク東海道五十三次で京都・三条大橋に到着した寅次郎、帰路はバーチャルウォーク中山道六十九次で江戸・日本橋へ戻ります。

今回は各宿場を紹介しながら、京都からの中山道（東下り）を楽しみます。

各宿場の紹介は山と溪谷社の「歩いて旅する中山道」を参考にしました。写真は無料画像を使用しています。

前は小田井宿から坂本宿まで歩きました。今回は松井田宿から倉賀野宿まで歩きます。

[松井田宿] 群馬県安中市松井田町松井田

最寄駅 JR信越本線 松井田駅

2024年5月24日松井田宿（京都・三条大橋から408km）に到着しました。松井田宿は米や物資の中継地点として賑わい、特に信州からの年貢米を扱う商人宿（米宿）と牛馬宿が数多くありましたが、今では宿場の跡を伝えるものもなく、町も閑散としています（写真下左）。しかし寺社が昔の宿場の繁栄を物語っています。写真下右は源頼朝も参拝した記録が残る「松井田八幡宮」です。



[安中宿] 群馬県安中市安中 最寄駅 JR信越本線 安中駅

2024年5月29日安中（あんなか）宿（京都・三条大橋から418km）に到着しました。安中宿は碓氷川と九十九川に挟まれた河岸段丘の高台にあります。地名は戦国時代に安中城を築いた安中氏に由来します。江戸時代に井伊直政の子の直勝が安中城主となり、町割りし、安中宿を開きました。安政の頃の藩士の心身鍛錬のために始めた「安政遠足」は現在のマラソンのことで、日本のマラソンの起源とされています。今でも毎年5月の「安政遠足 侍マラソン」には大勢のランナーが参加しています。写真下左は家並み、写真下右は「本陣跡」です。



[板鼻宿] 群馬県安中市板鼻

最寄駅 JR信越本線 安中駅からバス利用

2024年5月31日板鼻（いたはな）宿（京都・三条大橋から421km）に到着しました。



板鼻宿は碓氷川の「徒歩（かち）渡り」が有名で、川が増水すると川止めになり、旅人は板鼻宿に逗留しなければなりませんでした。そのため宿場は繁盛しました。皇女和宮一行もここの本陣に宿泊しています。また、旅籠だった板鼻宿は明治か大正の頃に「カツ丼」（写真下右）を作り、今や板鼻宿の名物になっています。

[高崎宿] 群馬県高崎市田町など 最寄駅 JR高崎線 高崎駅

2024年6月2日高崎宿（京都・三条大橋から428km）に到着しました。高崎は商業の盛んな城下町でした。諸大名が城下を敬遠したため、本陣や脇本陣はありません。今や大都会になり、「高崎城址」（写真下左）や城下町の町屋（写真下右）などがわずかに残っています。



寅次郎、江戸から中山道を歩いている八柳修之さん（FWAのバーチャルウォークの提唱者）と連絡を取り合い、高崎宿でバーチャル宴会を行いました。お互いに2024年を振りかえり語り合いました。写真下は当日のご馳走です。



写真上左は「おっきりこみ」で群馬県名産の小麦粉を使った太めの麺と季節の野菜などを一緒に煮込んだ群馬県の郷土料理です。野菜は人参、長ネギ、しいたけ、大根、ジャガイモが主でしょうゆ味（しょうゆと味噌の両方の味もあり）です。麺を鍋に包丁で切り込んで入れるのが名前の由来だそうです。

写真上右は高崎名物の「だるま弁当」です。高崎市郊外の少林山達磨寺では1月に縁起のだるま市が開催されます。醤油味で炊いた茶飯と群馬名産のこんにゃくや山の幸が詰め込まれています。当初、容器は陶器でしたが、現在はプラスチックで食べた後は貯金箱になります。1960年（昭和35年）の発売開始なので昔の中山道の旅人は食べていませんが、寅次郎は高崎観音だるまツアーマーチに参加するたびに美味しくいただきました。

二人の最大の話はスタッフの高齢化や財政難に伴う、ウォーキング協会運営の話です。神奈川県ウォーキング協会（KWA）では老舗だった鎌倉歩け歩け協会、小田原歩け歩けの会に次いで、最大規模でリーダー格だったよこはまウォーキング協会が2025年12月31日で、その活動の幕を閉じるとのことです。FWAが財務危機などを乗り換えて生き残っていくことを切に望みました。

[倉賀野宿] 群馬県高崎市倉賀野町 最寄駅 JR高崎線 倉賀野駅

2024年6月4日倉賀野（くらがの）宿（京都・三条大橋から434km）に到着しました。倉賀野宿は利根川につながる烏川の最上流の河岸場であり、西上州はもとより信越方面との水陸輸送の拠点でした。宿場は活気にあふれ飯盛女も多くいました。写真下左は宿場の面影を残す家並み、写真下右は地域の氏神様の古社「倉賀野神社」で、飯盛女らの信仰も集めたそうです。



今回はここまでとします。

平野 寅次郎 拝